

2020 岡山スポーツ回顧

② 高校野球



甲子園交流試合で仙台育英に快勝し、校歌を歌う倉敷商ナイン。8月15日

倉敷商 センバツ出場幻に

球児の憧れの舞台が夢と消えた。新型コロナウイルスの影響で甲子園大会は戦争による中断を除き、史上初めて春の選抜、夏の選手権が連続で中止に。選手権出場を懸けた地方大会もすべて取りやめとなった。選抜に8年ぶりの出場を決めていた倉敷商のナインは無念さをにじませた。

5月下旬、春に続き、夏の甲子園出場の道が閉ざされ、同校の原田将多主将(当時)は聖地を「幻みたいな存在」と表現した。それでも選手たちは失意からはい上がり、選手権岡山大会の代替として7、8月に開かれた夏季県大会で頂点に立った。

選抜に出場予定だった32校による8月の甲子園交流試合でも力を発揮し、強豪の仙台育英(宮城)に6-1で快勝した。

来春の選抜につながる秋の中国大会(10、11月・島根県)で県代表3校は苦汁をなめた。創志学園、関西は初戦、学芸館は準々決勝で敗れ、岡山勢として20年続いていた4強入りを逃した。選抜の出場は極めて厳しい状況だ。

軟式も夏の全国選手権と、その予選となる地方大会が中止になり、選手権岡山大会に代わる夏季県大会(7、8月)を関西が制した。

(田井香葉子)

KCM「シチズン・オブ・ザ・イヤー」



「シチズン・オブ・ザ・イヤー」を受賞した倉敷商高野球部

倉敷商高野球部が受賞 県大会で優勝



藤井会長(左)から表彰を受ける元主将の原田さん

エフエムくらしき、倉敷ケーブルテレビ、玉島テレビ放送の3社で構成する倉敷コミュニティ・メディア(KCM)は、顕著な功績

を挙げた市内の個人や団体に贈る今年の「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に、倉敷商業高野球部を選んだ。同高野球部は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、春の選抜高校野球大会が史上初の中止となったにもかかわらず、その悔しさを糧に夏の県大会で優勝。甲子園交流試合では、強豪・仙台育英高(宮城)を6-1で破った。

9日、倉敷市新田の練習グラウンドで表彰式があった。KCMの藤井鉄郎会長が「市民に勇気と感動、喜びを与えてくれた」と、主将を務めた3年原田将多さん(18)らに賞状を手渡した。受賞記念のボール2個と練習用ボール10ダースも贈った。

梶山和洋監督(33)は「これからも地域の皆さんに応援していただける野球部でありたい」、原田さんは「新型コロナウイルスで大変だったが、(市民を)勇気づけられたかなと思う」と話した。

シチズン・オブ・ザ・イヤーは毎年、1個人・団体に贈られ今回で19回目。(仁井名小百合)